

## 国際放送史研究の戯言No026

## 追悼・日向寺康雄さん

島田 顕

2024年1月5日に、モスクワ放送（ロシアの声）の先輩である日向寺康雄さんが急逝された。悪性リンパ腫だった。昨年12月20日に緊急入院するとの知らせを受け面会に行こうとしたのだが、基本的に面会謝絶の病棟で、当初面会はできなかった。ようやく面会が許されたのは、かなり症状が進んでからのこと。12月31日に面会に行ったら、酸素吸入のマスクをつけ、息も絶え絶えの状況だった。苦しそうだったけど、会話はできた。冗談交じりの「プーは何している？」という言葉が印象的だった。すでに固形物を食べることができず、ジュースしか飲むことができなかったのも、院内のコンビニでミネラルウォーターなどを大量に買い、病室の冷蔵庫に入れて、退出した。回復を信じて。しかし願いはかなうことはなかった。

新年になってますます面会が厳しくなった。じりじりと過ごしているうちに、1月3日の早朝午前3時30分に病棟から電話があり、意識がないということだった。1月4日に面会に行ったときには、名前を呼んでも答えることはなく、眠っているだけだった。帰りに主治医に呼ばれ説明を受け、覚悟しておくようにと言われた。翌日1月5日朝、心臓が止まったとの連絡を受け急いで駆け付けた。病室では心電モニターがゼロでまっすぐ横線を引くのみ、主治医の死亡確認に立ちあった。1月10日に密葬を済ませ、お骨は最後の住処に仮安置されている。

日向寺さんは、1958年生まれ、早稲田大学文学部ロシア文学科を卒業後、1987年からモスクワ放送に勤務、2017年に帰国するまでの19年にわたり、日本語放送のアナウンサー兼翻訳者をつとめた。その間モスクワ放送はロシアの声、ラジオスポーツニクと名前を変え、短波・中波での放送からインターネットでの配信放送



在りし日の日向寺康雄さん

にかわり、廃止を迎えた。現在はニュースを中心としたホームページを残すのみである。

日向寺さんと出会いは、私がロシアの声に採用された後の1996年の9月に横浜でのことだった。その後赴任後に空港に迎えに来てくれたのも日向寺さんだった。1997年のロシアで迎える初めての正月に、赴任草々の私を気遣ってくれて自室に招いてくれて、夜通しいろんなことを話した。私が放送局をやめた後も、モスクワに行くときには必ずお会いしていた。日向寺さんが日本に戻ってきてからも。スーパー銭湯にはよく行ったし箱根に2度ばかり泊りに行ったこともあった。昨年夏には、ムヘンシヤンの故郷である、福岡県の英彦山と一緒に泊まりに行くはずだったが、日向寺さんがコロナにかかってしまい、かなわなかった。

日向寺さんが亡くなってから、様々な方々に連絡した。そこで日向寺さんの知識の深さ広さと、交流の幅広さを思い知らされることになった。バタバタとしていて連絡が取れなかった方々も多くいることは間違いない。この場所をお借りしてお詫び申上げたい。また後日お別れの会を開くことを計画しており、その時にご連絡差し上げたいと思う。これを読んで日向寺さんのお別れの会に参加されたい方は、日口交流協会を通して連絡してください。よろしくお願ひ申し上げます。

日向寺さんの功績については他の方が書くのであえてここでは書かない。だが、ロシアと日本を照らす大きな星が墜ちたという喪失感、決して拭い去ることはできない。



日向寺康雄さんが2024年1月5日に亡くなられた。日向寺さんは2009年5月から2023年12月号まで「日口交流」紙の中で『モスクワ・アラカルト』を78回にわたり連載。東日本大震災のチャリティーコンサート等を大使館で実現できたのも日向寺さん尽力によるもので、実に永きにわたり協会になくしてはならない人だった。『モスクワ・アラカルト』は冊子にする予定で進めていたが「表紙は少し費用を出しましょうか」と協会の台所事情を知って慮ってくれたりしていた。いつも笑顔で、絶えず誰かのお世話に奔走している姿ばかりが思い出される。

3月には役員として迎えられる予定で、総会の講演もお願いしていたのだったが、あまりにも突然早世されてしまった。

ロ日協会から弔辞が届きましたので、ここに掲載させていただきます。(広報部)

全ロシア社会組織「ロ日協会」

親愛なる皆様！ 日口交流協会幹部及び会員の皆様！  
“ロ日協会”会員にとり日向寺康雄氏の急逝の一報は大変な衝撃でした。この有能なジャーナリスト、アナウンサー、通訳者そして卓越した人物のご逝去に際しお悔やみを申し上げます。

1987年から30年間にわたり日向寺氏は後日1993年に“ロシアの声”と名称が変更された“モスクワラジオ”に勤務され、日本の

皆さんと日本にいる我々の同胞にロシアの生活を知らせることでロシアの文化とロシア語の普及に尽力され、真の民間外交官としての真価を発揮し、ロシアと日本人の架け橋の役割を果たされました。我々同僚の思い出では、日向寺康雄氏は職場で大変な権威と尊敬を享受し、日本の聴衆のための番組の普及に尽力してプロフェッショナルとして創造的人材として自らを示しました。同氏は常に同僚を助けるために駆け付け、困難な状況からの解決策を見つけてくれた、仲間たちの中の魂であり、仕事場では友好的雰囲気を作りあげたのです。

日向寺康雄氏の思い出は同氏の同僚及び聴取者、そしてまた日本とロシア間の人文交流の発展に携わるすべての皆様の心にとっても残るでしょう。どうか日向寺氏の近親の皆様すべてに私たちの心からの励ましの言葉をお伝えください。

思い出は永遠に！日向寺康雄様のご冥福をお祈りいたします。

ロ日協会会長 Galina Dutkina

ロ日協会理事長 Marija Kirichenko

ロ日協会事務局長 Evgenij Kruchina

ロ日協会サイト管理者 Oleg Kazakov

“ロ日協会”会員一同

